

グローバルファンド：命が救える投資

—エイズ・結核・マラリア流行の終結に向けて—

第5次増資 2017-2019年

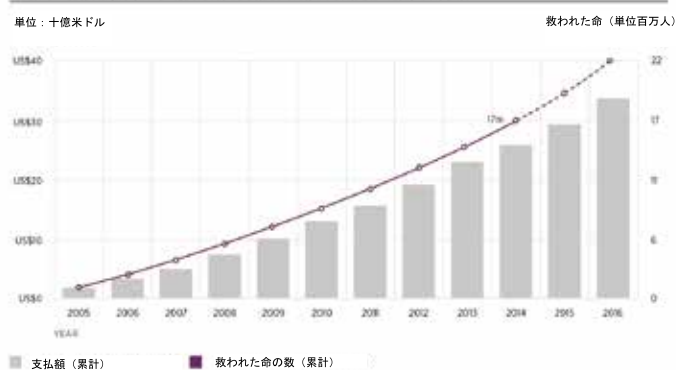
グローバルファンドの投資

グローバルファンドは、これまでにない21世紀型のパートナーシップを構築し、世界の保健衛生に革新的変化を起こしました。世界の国々がエイズ・結核・マラリアの三大感染症を早期に克服し、強靱で持続可能な保健システムを構築できるよう支援し、さらに人権、共通の尊厳、公正を阻む障壁に挑んでいます。政府、市民社会、民間セクター、三大感染症とともに生きる人々等と強力なパートナーシップを構築し、最も援助を必要とする国々で活動する専門家を通じ人々がより良い保健医療サービスを受けられるよう支援しています。これらの専門家は失われかけた命を助け、人々を病の苦しみから救います。こうしたパートナーシップや協力により感染症の影響が最も深刻なコミュニティが成長し、15年前には考えられなかった大きな可能性を生み出しています。

グローバルファンドが支援するプログラムは、初めて資金を拠出した2002年以降、1700万人の命を救っています。グローバルファンドとパートナーによる協働の成果が、科学の進歩や革新的ソリューションを活用しながらこのペースで続けば、次期増資期間直前の2016年には救われる命が2200万人に到達すると予想されます。以下のグラフは過去10年間、投資の累増に伴い、救われた人の数が着実に増加していることを示しています。

救われた命

グローバルファンドが出資したプログラムによって救われた命の数



機会

2017年からの3年間には国際保健分野における変革がさらに加速する可能性があり、国際社会は今以上に大きな進展を実現する機会を手にすることでしょう。グローバルファンドが支援しているほとんどの国で、HIV・結核・マラリアの三大感染症のまん延を阻止するというミレニアム開発目標は達成され、期待以上の成果が上がっています。三大感染症による死者も新たな感染者も減少し、国際保健の向上にパートナーシップモデルが最も有効な方法であることを実証するものとなりました。イノベーションの実現により、近年の成果（その多くは現在の増資期間である2014年から2016年の間に達成されました）のさらなる拡大が可能になり、持続可能な開発目標（SDG）で示された、2030年までに三大感染症の流行終結という目標を各国が達成できることでしょう。

パートナー機関の策定している疾病対策計画に基づき、グローバルファンドとパートナー機関が共同で分析を実施したところ、様々な対策は現状でも驚異的と見られる進展を果たしていますが、今後さらに感染者や死亡者の減少が大幅に加速する可能性があることが分かりました。パートナー機関が対策計画の中で優先する最も効果の高い優先事項に沿ってグローバルファンドが資金面での支援を行えば、進展はさらに大きくなり、HIV・結核・マラリアの感染や発症件数を歴史的な低水準まで引き下げることができると見られます。

近年のこうした目覚ましい進展によって、HIV・結核・マラリアの抑制は大きな山を越えました。しかし依然として追加投資が必要であり、その投資をより有効に活用することも必要です。より大きな感染症対策への投資がなければ、ここまで順調に進んできた感染症対策が後退し、三大感染症の再流行が起こり、大きな経済的・社会的コストの発生につながりかねません。現在の投資水準を維持しているだけでは不十分でしょう。

感染症対策におけるパートナー機関は、それぞれ2030年までに三大感染症の流行を終結するための戦略計画を策定し、計画達成に必要な費用概算がなされました。2017年以降の3年間に、グローバルファンドが支援している国々でパートナーとともにHIV・結核・マラリア対策を実践するために必要とされる資金総額は、実施国内予算と国外からの拠出金を合わせて970億米ドルと見積もられています。

グローバルファンドの役割

国際保健に対する各国の考え方や投資のあり方について、パラダイムシフトが求められています。疾病対策、保健、開発などの目標を達成するために、国外のパートナーが実施国にどのようにテコ入れするかといった視点から、実施国が国外からの支援をどのように活用するかという新しい視点に変える必要があります。考え方を考えるためには感染症対策への国内資金の拡大が必須であり、それはすでに実現し始めています。

グローバルファンドは、困難は多いが達成可能性が高まったHIV・結核・マラリアの流行終結に向けた取り組みに対し、必要な投資の拡大を加速させるといった触媒の役割を果たしています。実施国内での国内資金調達は大増し増加しており、すでにHIV対策資金の半分以上、結核の4分の3以上、マラリアの約4分の1を占めるようになりました。後述のように、保健への投資に占める国内資金の比率は毎年上昇を続けています。しかし、世界が三大感染症の流行を終わらせる機会を逃さないためには、国外からの資金が引き続き不可欠です。パートナーから拠出・供与を受けたグローバルファンドは現在、HIVのための国外資金の5分の1、結核の4分の3、マラリアの半分を供与しています。より多くの資金があれば、より多くのことができるのです。

増資額は130億米ドル

グローバルファンドは第5次増資で130億米ドルの調達を目指しています。国内の資金調達が大幅に増加し、グローバルファンド以外からの国外資金調達も安定し、活動の実施も前進し続ければ、130億米ドルの資金調達は、パートナー機関が予測する資金ニーズ総額の80%に達すると考えられています。各実施国が現状を転換し、2030年までに疾病計画の目標達成に必要な軌道に乗るという目標に向かう中で、ニーズの80%を満たす資金レベルは、すべてのパートナーの力の結集を促し、最も効果的な活動によって計画の実践を最大化・最適化させることができるものです。そして資金ニーズの総額である970億米ドルの資金調達に一步近づぐごとに、そしてそれを超えることができればなお、成果を拡大することができるでしょう。

第5回増資の130億米ドルで以下のことが可能になります。

- ・グローバルファンドが支援するプログラムを通して最大800万人の命を救うことができ、2020年までの累計で3000~3200万人の命が救われる
- ・三大感染症の新たな感染を最大で3億件回避することができる
- ・グローバルファンドは、強靱で持続可能な保健システムの構築に相当の貢献ができる
- ・三大感染症対策に対し410億米ドルの国内投資を動員することができる
- ・女性や女児、キーポピュレーション(高い感染リスクにさらされている人口集団)や人権への取り組みの強化を支援できる
- ・パートナーの試算に基づくと、向こう数年~数十年で、最大2,900億米ドルにのぼる幅広い経済的効果がもたらされる

経済的効果は2,900億米ドルと予測されていますが、これはパートナーが試算した各グローバルプランの実施による投資効果予測に基づいています。生産性と消費の伸びをとらえ、家計の貯蓄を考慮し、治療によって命を救われた人がコミュニティの経済の健全性に貢献する可能性も含めて試算することで、健康と社会生産性の向上がもたらす経済的価値を評価しています。総額は科学的な予測ではなく、おおまかな推計にすぎないものの、各パートナーの計画で示された効果の推計をまとめたものです。

1億米ドルでできること

すべての拠出が重要です。資金を拠出できるすべてのパートナーは、現在進行中の成果達成に貢献し、協働の喜びを分かち合うことが期待されます。マッチングファンドを活用することでより大きなインパクトをもたらすことができるパートナーもいます。拠出誓約額を増やすことで、感染症の影響を大きく受けるコミュニティの社会的、経済的な健康に連鎖的な利益をもたらすことができるパートナーもいます。すべての拠出が違いをもたらすことができ、私たちの資産では1億米ドルの拠出が世界の保健医療と関連したセクターで以下のような成果が達成できると考えています。

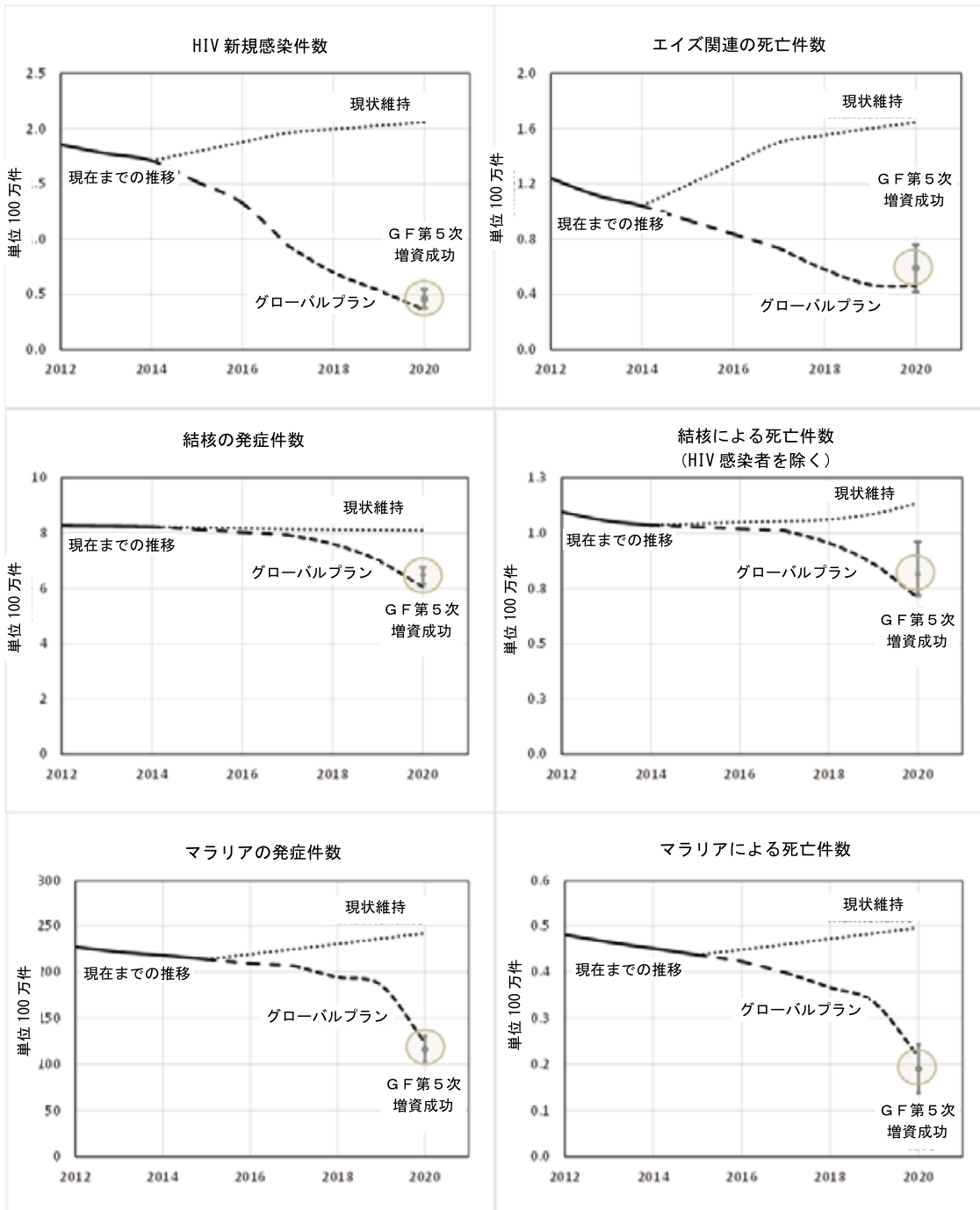
グローバルファンドに1億米ドル拠出すること



三大感染症を克服するためには、実施国による大規模な保健医療分野への投資も不可欠です。グローバルファンドの2014~2016年の増資期間については、国内の資金調達の拡大について強気の見通しが示され、全体として各国とも協力の姿勢を見せ、国内資金増加の誓約に至りました。2013年の見通しでは、HIV・結核・マラリアに関連したプログラム向けの国内資金は、今後3年間に年平均11%の割合で伸びると予想されましたが、最新の計算でこうした予想が実現しつつあることが示されました。グローバルファンドは、支援を受けている国々に共同資金調達を義務付けていますが、それもひとつの要因となり、各国はパートナーとの協力を通じて現時点で国内資金調達の誓約額を59億米ドル増やしています。次期増資期間の3年間に国内資金がさらに増加すると予想され、HIV・結核・マラリア関連プログラムへの国内投資は410億米ドルと、グローバルファンドを通じた投資の3倍以上になると期待されます。

疾病別の新たな感染/症例と死亡件数

グラフは、現在までの進捗の推移、今後グローバルプランに基づき対策が加速した場合の予測、今後も現在の投資水準が維持された場合の予測を示しています。グラフ内に円で示した「グローバルファンドが130億ドル集められた場合」は、第5次増資が成功し、かつその他の主要要因がそろった場合、2020年までに達成できると予想される水準の範囲を円で表したものです。



国内資金の重要な役割

グローバルプラン

世界保健機関(WHO)、国連合同エイズ計画(UNAIDS)、ストップ結核パートナーシップ、ロールバック・マラリア・パートナーシップなどの技術パートナーは、2030年までに三大感染症の流行を終結するという持続可能な開発目標3に沿ったグローバルプランを作成しました。各プランとも、今ある機会を認識し、資源のニーズを特定して中間目標を達成するための大胆で野心的な戦略の概要を示しています。

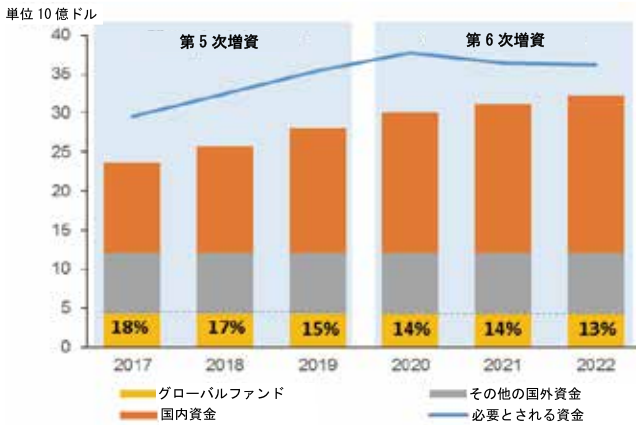
各グローバルプランでは、必要な対策を講じなかったり、投資が遅れたりした場合の影響も示しています。現行の投

資水準が維持されるだけでは三大感染症の広がりに対応が追いつかず、感染件数や死亡件数の増加を招くと予想され、数百万人の死亡や感染を回避する機会が失われてしまうのです。次ページのグラフは、投資を加速させ、HIV、結核、マラリア対策の大幅な進展を可能とするか、行動を起こさず深刻な代償を負うかの二つの選択肢を示しています。グローバルプランは世界すべての国での疾病に対応するために策定されていますが、グラフはグローバルファンドが支援をしている国々におけるトレンドを示しています。以下に記述されているように、グローバルファンドの投資事例を見れば、増資が成功し他の主要要因も適切に寄与した場合、何が達成できるかが分かります。

全体として、グローバルファンドが拠出する資金によって国際社会が正しい選択をし、また三大感染症対策資金におけるグローバルファンドが占める比率が第5次増資以降減少すると予測されます。以下のグラフによると、2020年に資金ニーズの総計はピークに達し、その後減少に転じると予想されますが、エイズ・結核・マラリア関連プログラムに投資される資源の総額は増加を続けると予想されます

HIV・結核・マラリア対策プログラムの予想投資額の総計

2017～2022年



強靱で持続可能な保健システムの構築

HIV・結核・マラリアの流行を終結することは、保健システムの強化によってのみ達成が可能となります。HIV・結核・マラリアの治療と予防への投資は、各国の保健システム全般を改善すると同時に、国の意思決定において感染症当事者コミュニティ主導による対策強化を促します。疾病対策への資金供与とシステム全般の改善が、このように相互に強化し合う関係があることが、グローバルファンドによる投資の特徴です。グローバルファンドによる投資の40%は保健システムの改善に向けられており、近年は分野横断的な課題のために使用される資金額が倍増しています。HIV・結核・マラリアおよび保健システム強化に向けた投資は、人々の健康全般の向上だけでなく、国全体にとって強力な相乗効果があり、多くの国において、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを通して質の高い医療を実施する取り組みのひとつとして大きな効果を示しています。しかし、保健システムとは医療現場だけにとどまるものではなく、当事者の集団としての「コミュニティ」の奥深くまで到達するものであることを理解することが重要です。感染症予防のカギとなる予防プログラムや行動変容プログラムはコミュニティの基盤を通じて提供され、コミュニティ内での治療や保健サービス提供は感染症対策に大きな貢献を行っています。より多くの弱い弱な人々や周縁化された人々に到達できるようコミュニティに力を与える必要があります。誰一人置き去りにしてはなりません。

ジェンダーの平等、キーポピュレーション、人権への投資

グローバルファンドとパートナーは、女性と女性の健康の向上とキーポピュレーション(高い感染リスクにさらされている集団)へのサービス提供に対しても重要な投資を行っ

ており、また人権を守るための活動に対する投資も増やしています。グローバルファンドはジェンダー不平等への取り組みを最も早い時期から最も強く訴えてきた組織の一つで、現在では投資額の55～60%を女性や女性の利益のために投資しています。アフリカの多くの地域では、女性と女性に対する根源的な不平等と差別がHIV感染の主な要因となっています。グローバルファンドは、多国間および二国間支援のプログラムと協力し、こうした不平等への対応を促進させるための取り組みを続けています。HIVや結核の感染者には、社会から疎外され置き去りにされたコミュニティの人々、例えば性的マイノリティ(LGBTI)の人々、性産業従事者、注射薬物利用者、移民、受刑者、都市部の貧困層が極めて多く、マラリアは5歳未満の小児と妊婦にとって最大の脅威です。

感染症を克服するための革新的な解決法を見つけなければなりません。HIVの予防と治療サービスへのアクセスは不可欠ですが、それを拡大するプログラムに投資するだけでは十分ではなく、女性と女性を高いリスクにさらす環境要因や社会的要因を変えることを目的とするプログラムを支援する必要があります。ある国に大量の蚊帳を配布するだけでは十分ではなく、マラリアには包括的なアプローチが必要です。同じやり方で結核を診断し、治療するだけでは十分ではなく、アウトリーチを劇的に拡大する必要があります。

中所得国においては、グローバルファンドは投資の焦点を物資調達や各疾病に特定のサービスから、人権や市民社会の実施するプログラムに移行し始めています。最も感染リスクの高いコミュニティであるキーポピュレーションの持つ特定ニーズに対応するために、こうしたプログラムへの資金の流れを増やそうとしています。グローバルファンドは全般に、予防や治療サービスにアクセスする際の障壁となる人権課題を解消するようなプログラムへの投資拡大を進めています。

グローバルファンドの活動はすべて、人類社会は多様ではあるが相互にからみ合う糸で織り上げられていることを認識し、人々を中心に据えた対策のアプローチを指針としています。女性が学校に通い続けられれば、HIVの予防や、ジェンダー平等の推進に極めて有効になり得ます。金銭的インセンティブの提供、社会的に弱い立場にある若い女性が専門学校に通えるようにするための介入、家族を中心にした手法のプログラムの重視、男児や男性をジェンダー不平等の取り組みに含めることなど、グローバルファンドはさまざまな活動を支援していますが、より一層の拡大が必要です。女性が健康と教育と経済的自立を手に入れ、十分な情報に基づいて自らの人生を決定することができるよう力を合わせて支援活動を続け、その結果、そうした自立した女性のクリティカル・マスを作り出すことができたときに、私たちの取り組みが間違っていなかったことが明らかになるでしょう。

2015年12月
theglobalfund.org